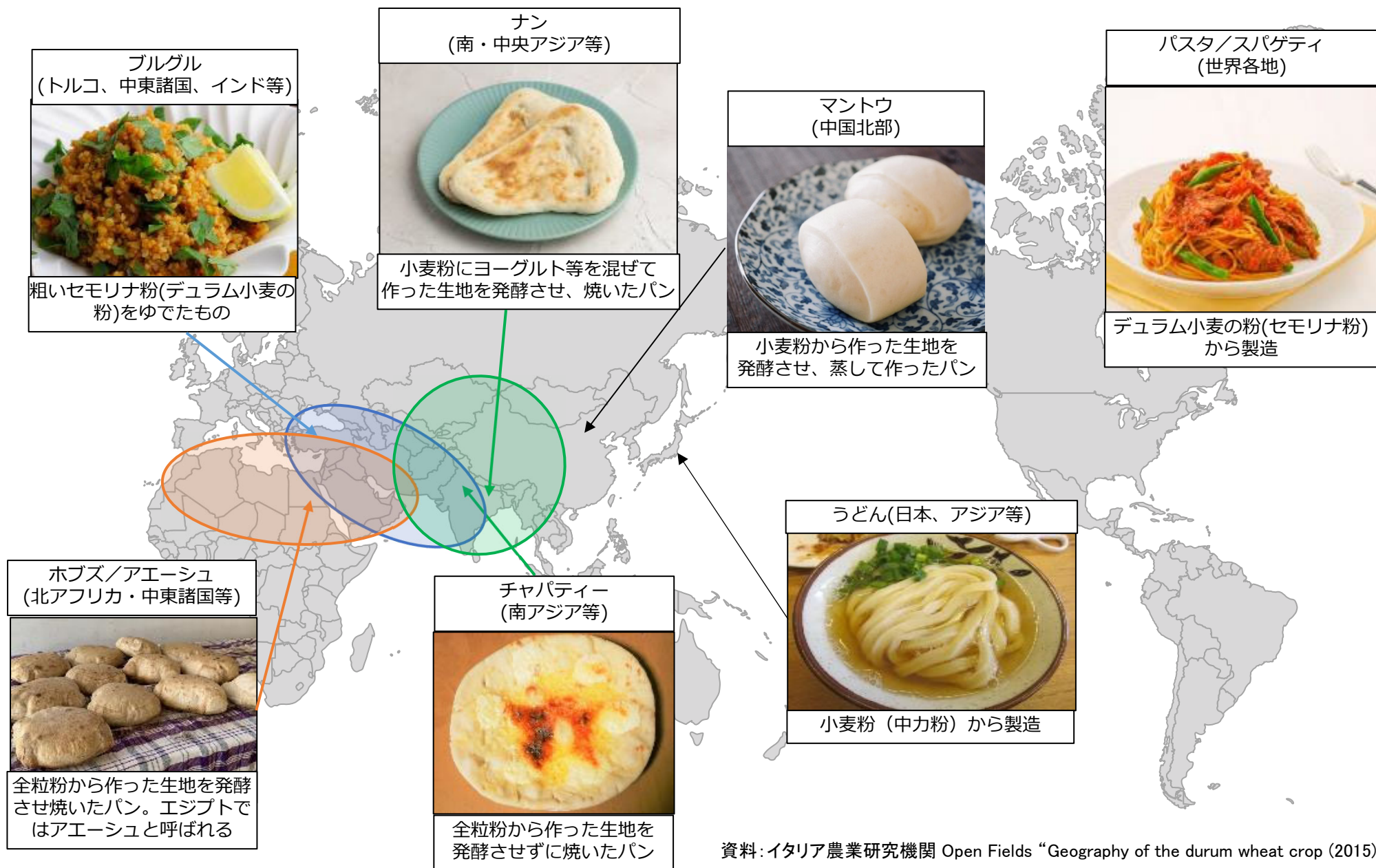


第12号特別分析トピック1：インド、トルコ、エジプトの小麦政策

世界で消費される小麦製品・料理

○ 小麦・小麦粉は世界中で多種多様な形に加工され、消費されている。



インドの農林水産概況

- 人口は、中国に次いで世界で2番目に多い13億5,264万人（2018年）。
- 国土面積は日本の約9倍、農用地面積は約40倍。農用地面積は国土の約半数を占めており、そのうち約6割で穀物を生産している。
- 主要農産物はコメ、小麦、とうもろこし、ばれいしょ、バナナ、マンゴー、牛乳(水牛・牛)等。特に主食穀物であるコメと小麦の生産を重視しており、コメは穀物生産量の約40%、小麦は約35%を占める。



・主要農産物の生産状況

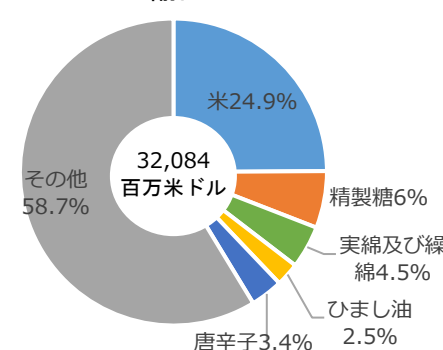
(単位：万トン)

	2016	2017	2018	2019	2020
コメ（粳）	16,370	16,850	17,472	17,765	17,831
小麦	9,229	9,851	9,987	10,360	10,759
とうもろこし	2,590	2,590	2,875	2,772	3,016
じゃがいも	4,342	4,861	5,131	5,019	5,130
バナナ	2,914	3,048	3,081	3,046	3,150
マンゴー・マンゴスチン・グアバ	1,864	2,333	2,497	2,563	2,475
りんご	252	227	233	232	273
綿実及び繰綿	1,731	1,743	1,466	1,856	1,773
茶	125	133	134	139	142
生乳（水牛）	8,127	8,626	9,182	9,200	9,003
生乳（牛）	7,810	8,363	8,983	9,000	8,782

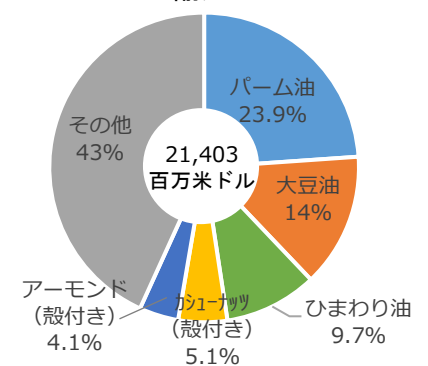
資料：FAO統計

農林水産物貿易の概況(2020年)

<輸出>

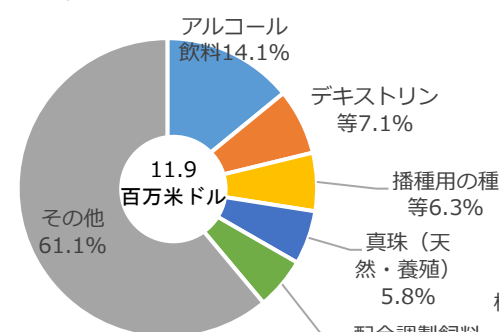


<輸入>

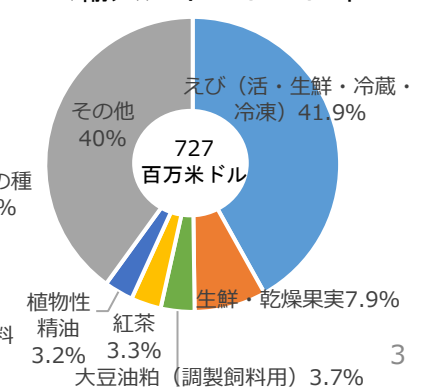


我が国との農林水産物貿易(2020年)

<輸出>日本→インド



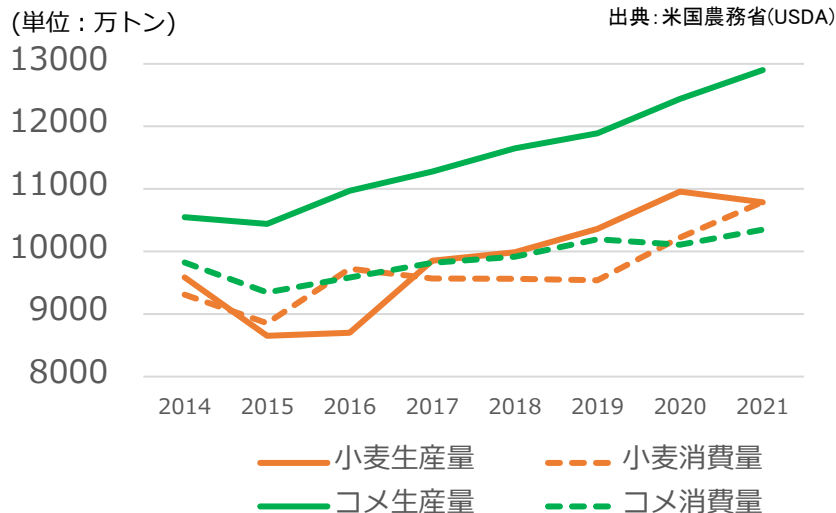
<輸入>インド→日本



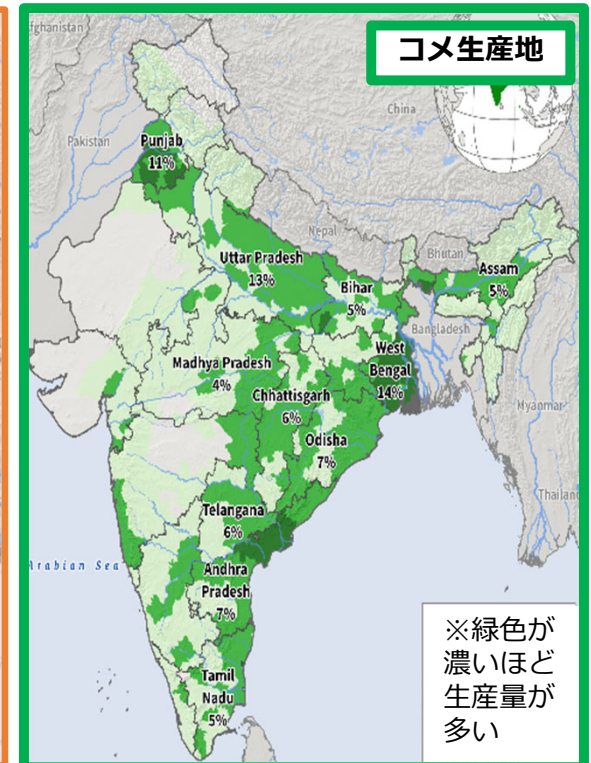
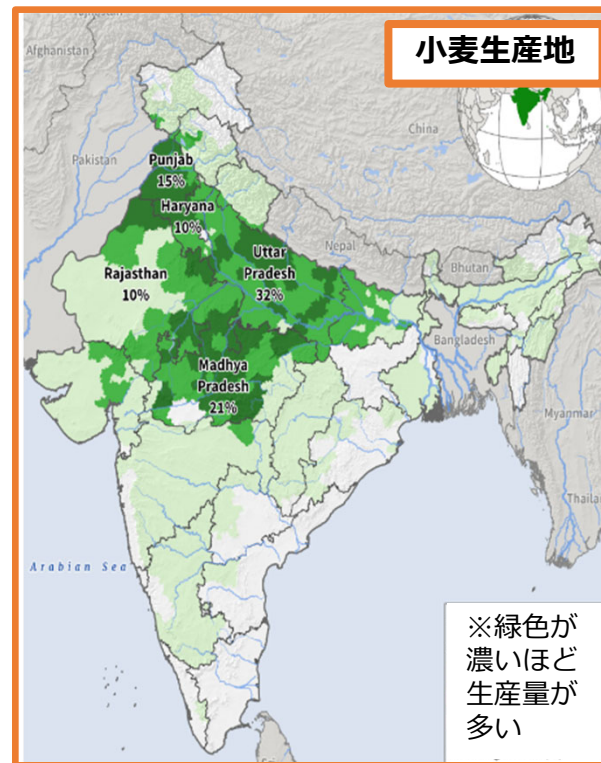
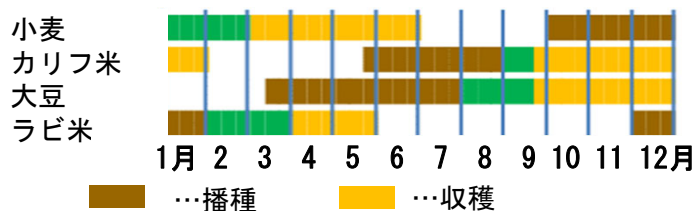
インドの小麦・コメの生産地域及び自給状況

- 小麦は主にインド北西部地方で生産されている一方、コメの生産地は東部から南部にかけて逆「く」の字を書くように位置している。
- 小麦の播種は10～12月、収穫は3～6月。一方でコメには雨季に育つカリフ米と乾季に育つラビ米があり、カリフ米の播種はおおよそ6～8月、収穫は10～1月、ラビ米の播種は12～1月、収穫は8～9月。主に北部ではカリフ米と小麦の二毛作が、南部ではカリフ米とラビ米の二期作が行われている。
- インドでは、1940年代や1960年代などに飢饉が起こり多くの犠牲者が出ていたが、主食穀物の生産に力を入れた結果、近年は小麦生産量が消費量を上回り、基本的に自給は達成できている。

インドの小麦及びコメの生産量と消費量の変化



クロープカレンダー 出典: FAO



出典: 米国農務省(USDA) 穀物生産地図(Crop Production Maps)

インドの国内小麦政策（政府買入制度と公的分配制度）

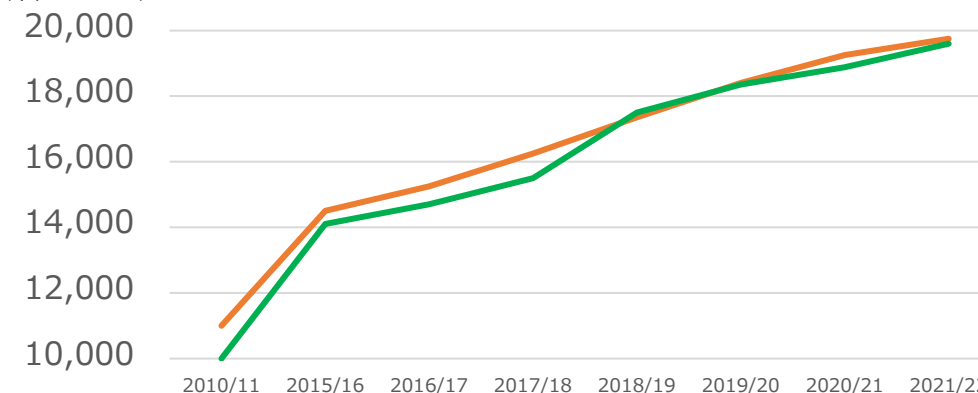
最低支持価格（MSP：Minimum Support Price）に基づく政府買入制度

- インド政府は、農家の収入安定（セーフティネット）のため、小麦、コメ、大豆、サトウキビ、綿花など23種の農産物を対象に、最低支持価格（MSP）に基づく政府買入を行っている。
- 実際の買い付けは、インド食料公社（FCI：Food Corporation of India）と州政府が共同で実施。原則、買上量の上限は設定されておらず、政府は生産者の希望に応じて買上を行っている。
- MSPは政治論争の的になることも多く、価格決定は与野党にとって非常に重要。実際に、2014年に政権の座に就いたモディ首相は、小麦とコメのMSPを就任以来毎年引き上げている。

公的分配制度（PDS：Public Distribution System）

- 1960年代、干ばつによって食料危機が発生したことをきっかけにインド政府が導入した制度。
- 最低支持価格（MSP）で買い入れた小麦やコメ等の穀物を、政府が低所得層向けに低価格（逆ざや）で販売することで、低所得層に対する食料支援を行うもの。2013年に食料安全保障法が制定されたことで、法的根拠を持つ制度となった。

（単位：ルピー）（参考） 1トン当たりの小麦及びコメのMSPの推移



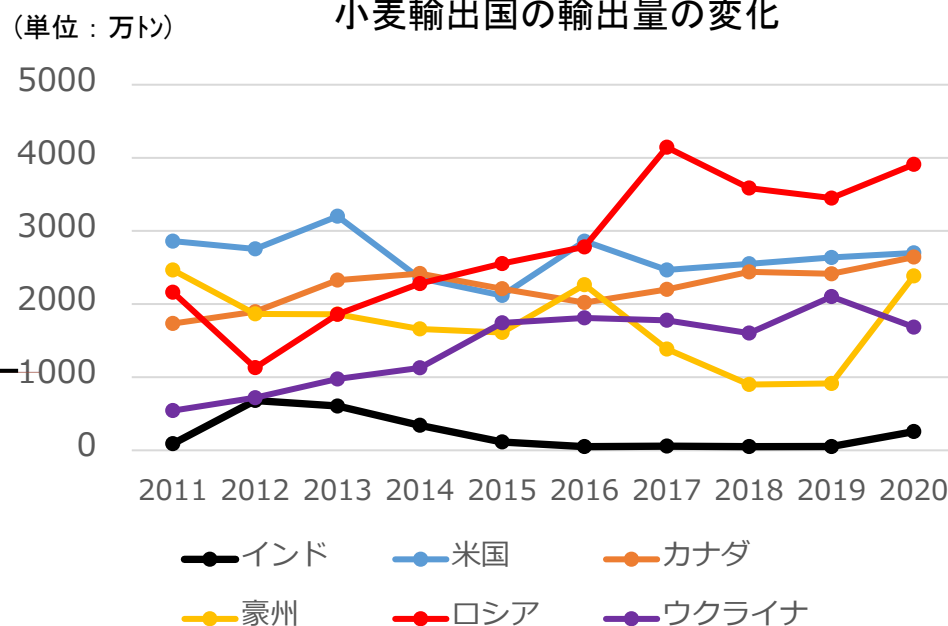
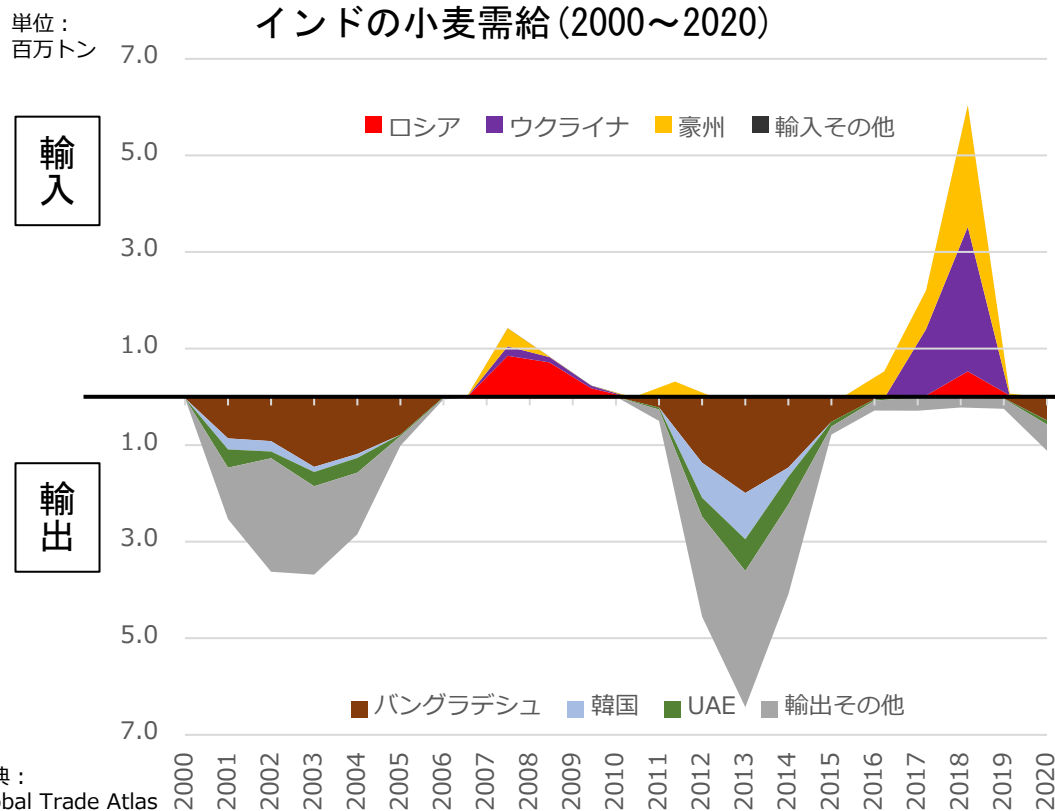
19,750ルピー（小麦）

19,600ルピー（コメ）

※ 1ルピー：約1.7円
（2022年6月現在）

インドの小麦貿易と対外政策

- インドは基本的に小麦を自給できているが、不足時には輸入し、余剰が生じた際には輸出している。
- 2011年、インド政府は小麦の輸出禁止措置を解除し輸出を再開。しかし輸出量を比較すると北米やロシア・ウクライナ等の輸出量には及ばず、輸出先も近隣のアジア諸国が中心となっている。これは、インド農業の競争力が向上したわけではなく、最低支持価格（MSP）の引き上げに伴って公的分配制度（PDS）の在庫が積み上がり、捌ききれない分が国際市場に流出しただけとする見方もある。
- また、世界的に小麦の需給のひっ迫が続く中、2022年5月14日からインドは小麦の輸出規制を実施。なお、輸入国の食料安全保障に支障がある場合は、協議の上、輸出が許可される場合もある。



トルコの農林水産概況

- 人口は 約8,361万人(2020年)。三方を海に囲まれている一方で、内陸部に標高3,000mを超える山々があるため、地域による気候差が大きく、多種多様な農業形態を有している。
- 主要農産物は、小麦、てん菜、トマト、大麦、とうもろこし、ぶどう、さくらんぼ、ヘーゼルナッツ等。特にヘーゼルナッツは生産量で世界の58%、輸出量では57%を占める（2018年）。
- トルコから日本への輸入額は2億7,186万米ドル（2019年）となっており、かつお・まぐろ類等の魚介類の他、スパゲティといった小麦粉製品も多い。



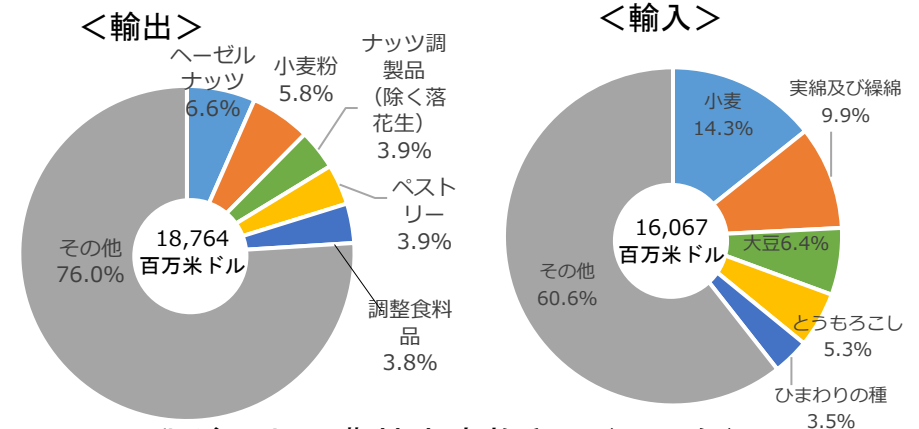
・主要農産物の生産状況

(単位：万トン)

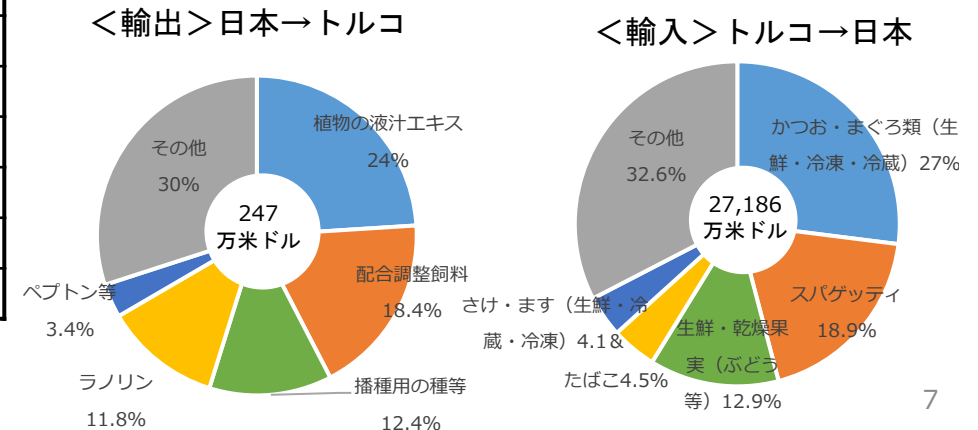
	2015	2016	2017	2018	2019
小麦	2,260	2,060	2,150	2,000	1,900
てん菜	1,646	1,959	2,115	1,744	1,809
トマト	1,262	1,260	1,275	1,215	1,284
大麦	800	670	710	700	760
とうもろこし	640	640	590	570	600
ぶどう	365	400	420	393	410
さくらんぼ	54	60	63	64	66
ヘーゼルナッツ	65	42	68	52	78
牛乳	1,693	1,679	1,876	2,004	2,078
鶏肉	191	188	214	216	214
鶏卵	105	113	121	123	124

資料：FAO統計

農林水産物貿易の概況(2019年)

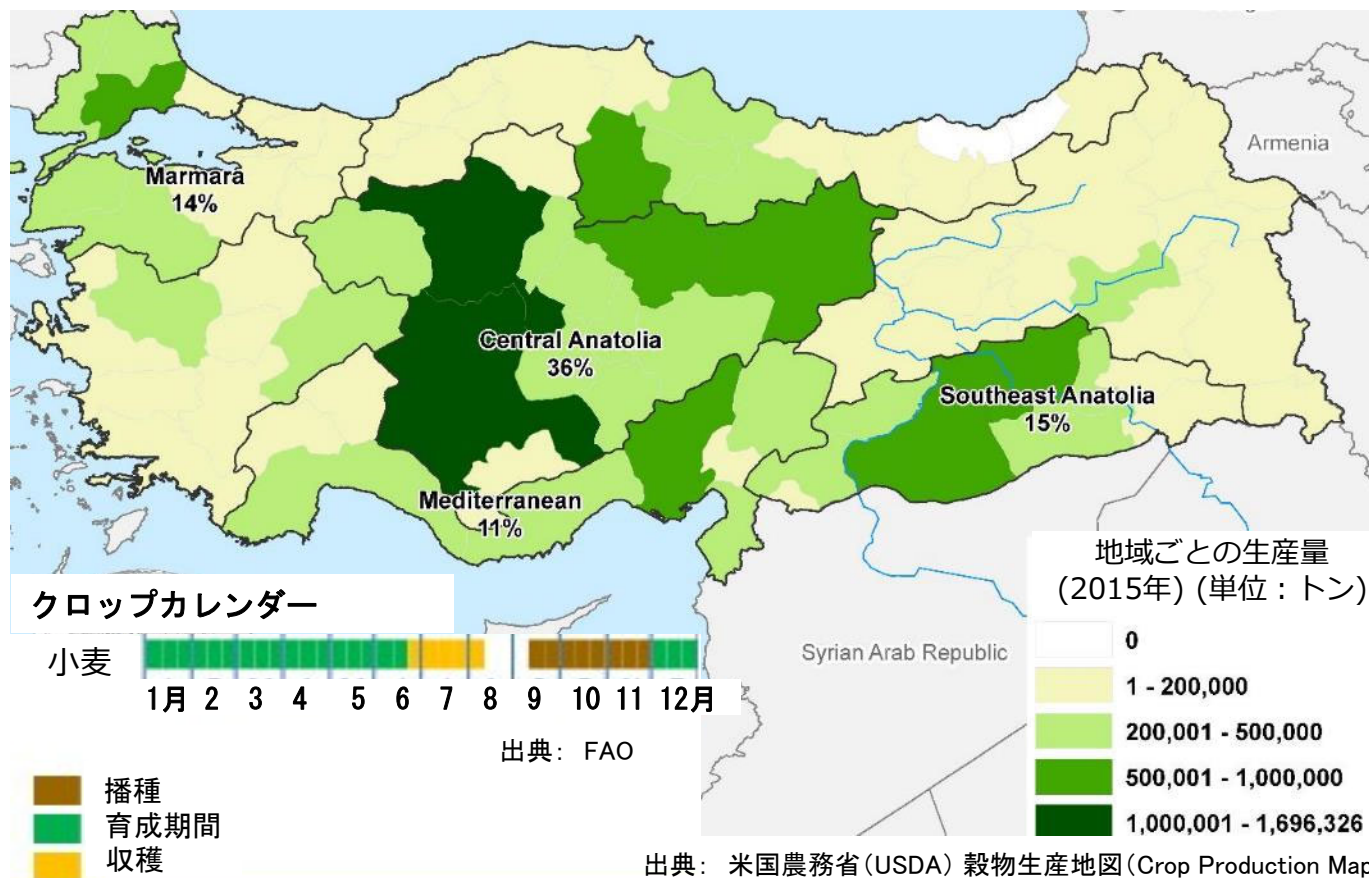


我が国との農林水産物貿易(2019年)



トルコの小麦生産地域

- トルコは世界有数の小麦生産国（2021/2022年度生産量は1600万トン）。中央アナトリア、南東部アナトリア、地中海沿岸地域等で主に生産されている。播種は9月中旬～11月末、収穫は6月下旬～8月上旬。
- トルコは小麦の自給をほぼ達成している一方で、諸外国から年間数百万トン以上の小麦を輸入している。それら輸入小麦を加工し小麦粉や小麦粉製品とした上で、近隣国に輸出する政策を行っている。



トルコの小麦自給率

年度	小麦自給率
2018/2019	102.3%
2019/2020	89.5%
2020/2021	100.5%

出典: トルコ統計局

トルコの国内小麦政策

- トルコは国内において以下の小麦政策を実施している。また、これらの他、国境措置や市場介入も行っている。

生産者に対する直接支援（プレミアム）

- 2005年に政府が導入した補助金制度（通称「プレミアム」）。国内生産が不足していると考えられている品目・分野（油糧種子、オリーブ、綿花、穀物、茶等）が対象。
- 小麦に対するプレミアムの補助額は以下のとおりであり、毎年農家が作付けを決める頃に発表されるため、農家の作物選択の指標の一つとなっている。

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020
小麦補助額 (1トン当たり)	50トルコリラ (TL)	50TL	50TL	50TL	100TL	100TL

※1TL＝約8円（2022年6月現在）
（ただしTLは変動が激しく、2015年は約45円、2017年は約30円、2019年は約19円と急落している）

パンへの補助金

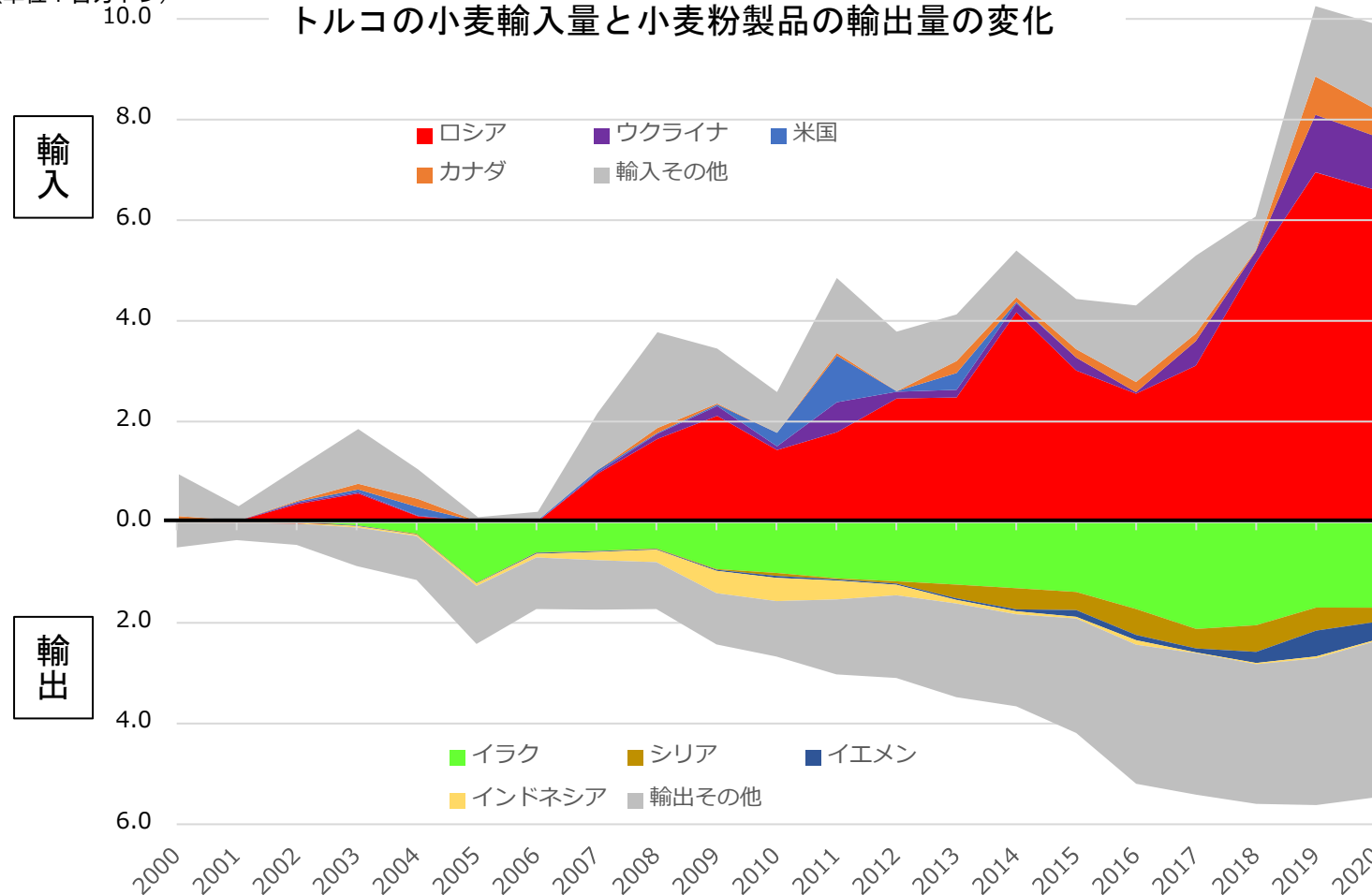
- トルコ政府は、各地方で営業する公営ベーカリーにおいて、特定のパンを安価で販売している。それら補助金が入ったパンの生産量は、全生産量の10%を占めるとされる。また、民間ベーカリーでも同じ種類のパンが販売されているが、その価格を上げる際には政府の許可が必要とされている。
- 例えばイスタンブールの市営ベーカリーでは、1斤（250g）当たり1トルコリラ（TL）で販売されており、市場価格の1斤（200g）2TLの半額以下である。また、アンカラの市営ベーカリーの販売価格は1斤（250g）当たり1.25TLであり、これも1斤（200g）の市場価格1.5TLより安い価格となっている。

トルコの小麦貿易と対外政策

- トルコは、小麦自給率がほぼ100%であるにもかかわらず、ロシアやウクライナ等からタンパク含有率の高い小麦を年間数百万トン規模で輸入し、それらを国産小麦と混ぜて小麦粉の品質を高めて使用している。また、主に国産小麦を小麦粉やベーカリー、菓子類等に製粉・加工した上で中東・アフリカ・アジア諸国等に輸出もしている。したがって、トルコの小麦生産や輸出入の動向は、近隣のアフリカ諸国等の食料安全保障の観点からも重要。
- 近年はコロナの影響等による各国の国境措置や物流コストの増加、輸出関税などに悩まされ、小麦粉や加工品等の輸出量は伸び悩んでいる模様。

(単位：百万トン)

トルコの小麦輸入量と小麦粉製品の輸出量の変化



主な輸出小麦製品と輸出先
(2019/20年)

製品	輸出総量	主な輸出先
小麦粉	約306万トン	イラク (約130万トン) イエメン (約39万トン) シリア (約26万トン)
パスタ	約132万トン	ソマリア (約12万トン) ベネズエラ (約12万トン)
ブルグル	約30万トン	イラク、シリア等

出典：米国農務省 (USDA)

出典：Global Trade Atlas

エジプトの農林水産概況

- 人口は約1億233万人(2020年)。農用地は国土の僅か3.7%で、95%は砂漠地帯。スーダンから流入し、国土を南北に流れるナイル川の沿岸とその河口の三角州地帯の狭い地域に人口・農地が集中。
- 砂漠気候で雨が殆ど降らないため、水資源の殆どをナイル川に依存。1970年に完成したアスワンハイダムによりナイル川の通年利用が可能となり、洪水防止とかんがい用水の安定的供給に大きく貢献したが、人口増加や農地拡大等により水資源が不足しており、限られた水資源の効率的利用のため水利組合の組織化を図っている。
- 野菜や果実の他、小麦、とうもろこし、コメなどの穀物生産もさかん。コメは日本由来の短粒種であるジャポニカ米が普及しており、日常的に食されている。



農林水産物貿易の概況(2020年)

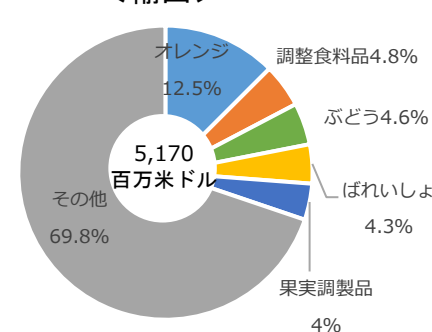
・主要農産物の生産状況

(単位：万トン)

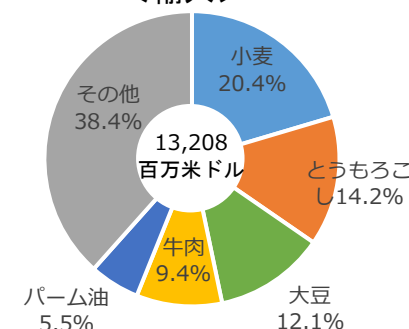
	2016	2017	2018	2019	2020
さとうきび	1,556	1,538	1,582	1,534	1,491
てんさい	1,121	1,086	1,038	1,225	1,304
小麦	934	842	835	856	900
とうもろこし	782	854	511	759	750
トマト	732	673	678	681	673
ばれいしょ	411	484	496	520	522
コメ(粳)	531	496	32	481	489
生乳(牛)	263	296	288	397	327
生乳(水牛)	233	235	221	123	175

資料：FAO統計

<輸出>

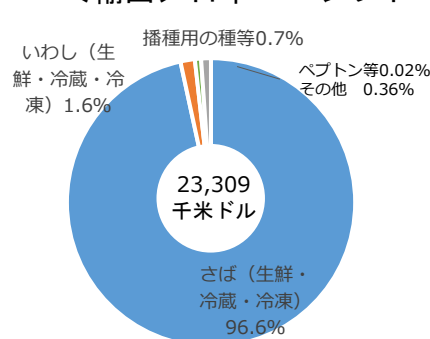


<輸入>

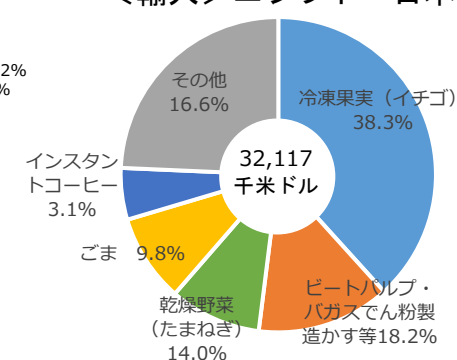


我が国との農林水産物貿易(2021年)

<輸出>日本→エジプト

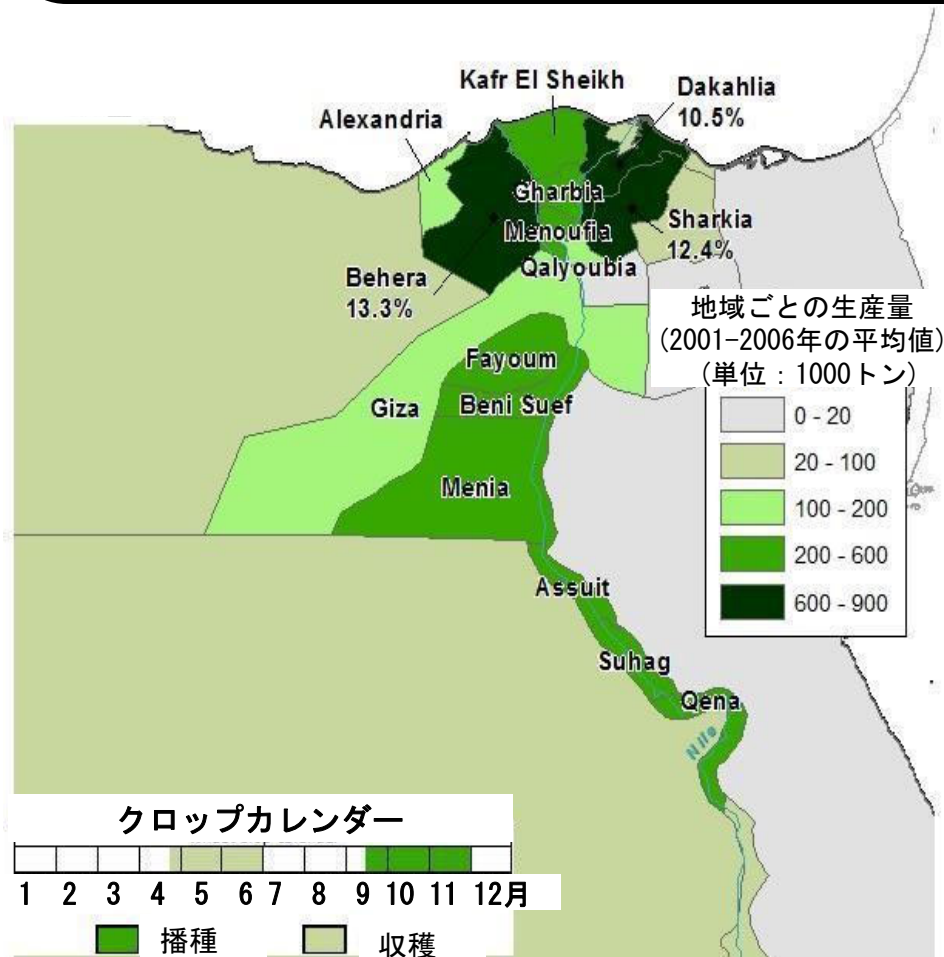


<輸入>エジプト→日本



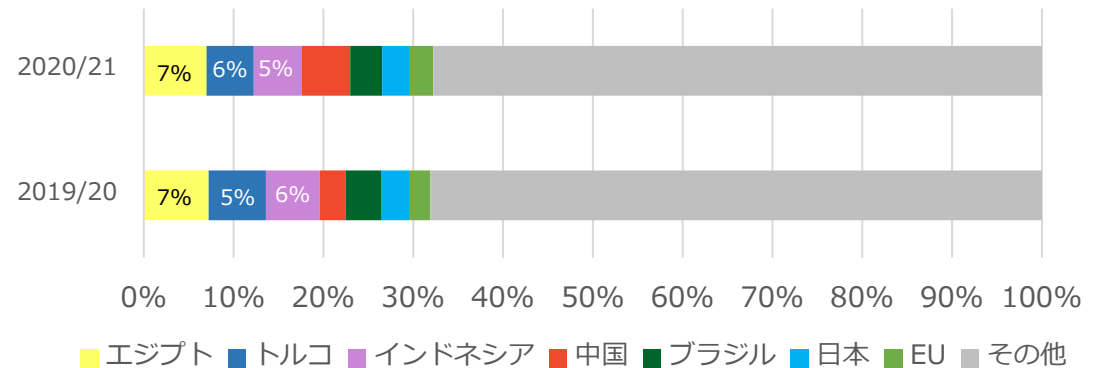
エジプトの小麦生産地域と需給状況

- エジプトは食料の純輸入国。特に小麦については世界最大の輸入国（世界の小麦輸入量に占める割合は約7%）。
- 一方で小麦はエジプトの主要農産物でもあり、ナイル川沿いの地域を中心に生産されている。播種は9月中旬～11月末、収穫は4月下旬～6月末。
- 小麦の自給率は41.4%（2020年）。変動はあるものの、2017年以降は緩やかな上昇傾向。



出典: 米国農務省 (USDA) 穀物生産地図 (Crop Production Maps)

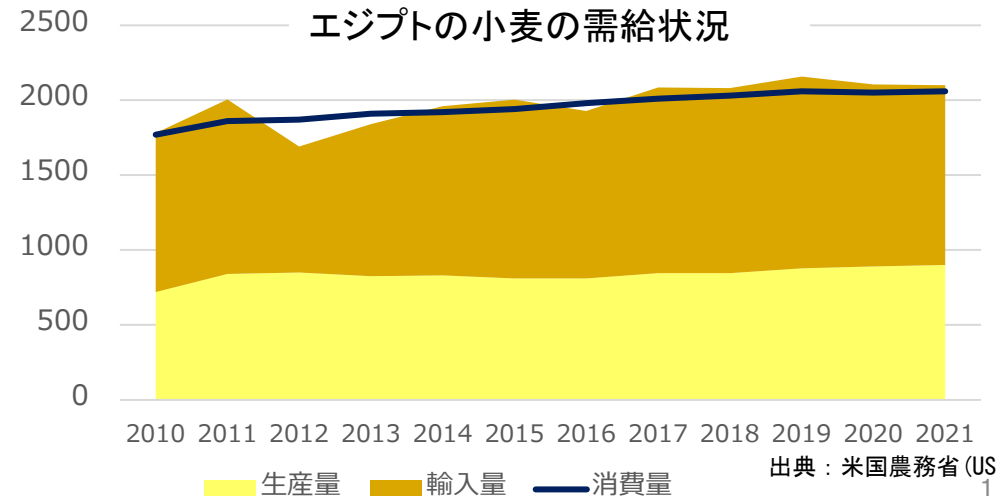
世界の小麦輸入国の内訳・割合



出典: FAO Food Outlook 2020、2021

(単位: 万トン)

エジプトの小麦の需給状況



出典: 米国農務省 (USDA)

エジプトの国内小麦政策①

政府買取制度

- エジプト政府は、貧困層向けのパンの製造のため、輸入小麦と国産小麦を国費により調達。
- 輸入小麦は、供給商品総局（GASC：供給・国内通商省直下の食料調達等を担当する公的機関）が複数企業による国際競争入札により調達。国産小麦は、例年3月末に政府が買取価格を公表し、4月中旬から調達を開始する。なお、政府による買取だけでなく、営農者が民間企業に卸すルートもある。
- 2022年の買取価格については、世界的な小麦価格の上昇を踏まえて、2021年11月に過去最高額となる820エジプトポンド（LE）（約52米ドル）／150kgとすることを発表した。さらに2022年3月には、市場価格の更なる高騰を受け、865～885LE（約57米ドル）／150kgとすることを発表。

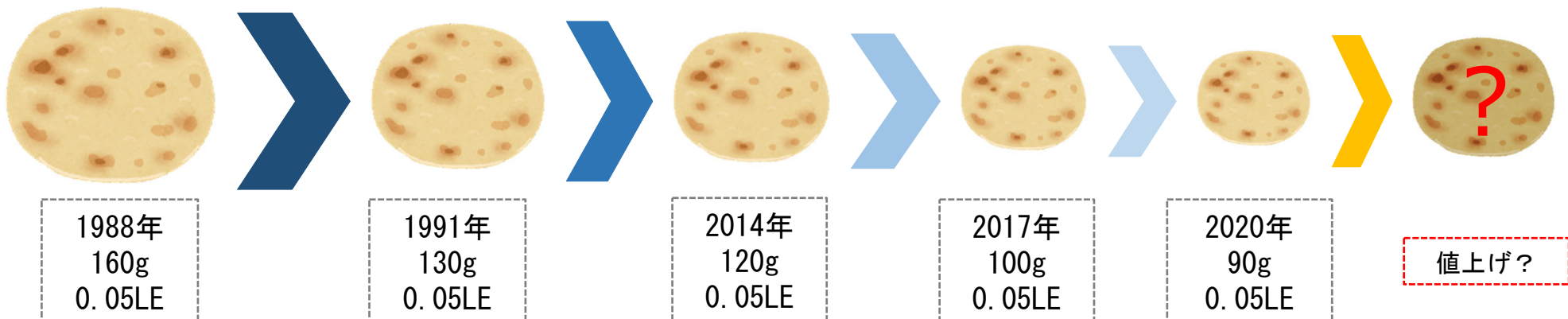
貧困層向けパンの補助金

- 貧困層向けの支援として、エジプト政府はベーカリーに対して補助金を支払い、ベーカリーは安価でパン（アエーシュ）を販売する施策を行っている。
- パンの販売価格は1斤あたり0.05LE（約0.003米ドル）で、政府によるベーカリーへの補助金額は、原価との差額（1斤あたり0.6 LE（約0.04米ドル））。人口の約7割がこの補助金の恩恵を受けているとされている。
- しかしこの補助金は年間で約500億LE（約33.3億米ドル）（2021年）にまで達しており、他の食料品（食用油や砂糖等）やエネルギー（天然ガス、軽油等）への補助金と併せて、エジプト財政を大きく圧迫している。

エジプトの国内小麦政策②貧困層向けパン補助金の変遷

- パンの販売価格は政治的に非常に機微な問題。1940年代に補助金制度が導入されてから3度しか値上げされておらず、現在の価格である0.05LE（約0.003米ドル）は30年以上改定されていない。1977年にサダト大統領（当時）がパンの値上げを試みた際には、死者が発生する暴動にまで発展し、値上げの撤回を余儀なくされる事態にもなった。
- しかし、貧困層向けパンの補助金は、他の食料品等への補助金と共にエジプトの国家財政を大きくひっ迫していることから、政府は長い年月をかけて徐々に実質的な削減を実施。ベーカリーでの販売価格は引き上げなくとも、パンの大きさを少しずつ小さくするなど、大きな反発を招かないよう時間をかけて慎重に補助を減らしてきた。
- 2021年8月には、現在政権を握るエルシーシ大統領が、パンの販売価格の引き上げが必要である旨発言。2022年6月現在、具体的な引き上げ金額等はまだ発表されていないが、改定後の価格のみならず、エジプト国民がどう受け止めるかも注目される。

（参考）ベーカリーでのパンの販売価格と容量の変遷

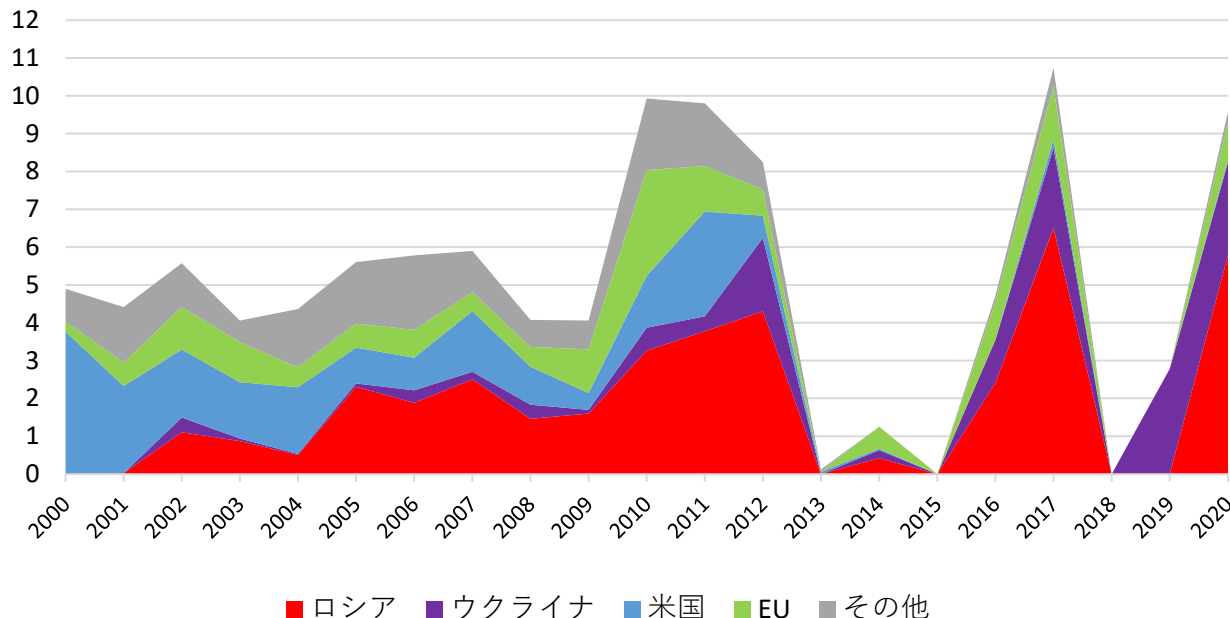


エジプトの小麦輸入

- エジプトは、2000年頃は主に米国から輸入していたが、2006年～2008年の食料危機を受けて輸入先国の多角化を図り、特にロシアからの輸入割合を増やしてきた。2020年にはロシア・ウクライナからの輸入額が小麦全体の86%を占めている。
- ロシアにとっても最大の輸出先はエジプト・トルコを含む中東・北アフリカであり、2020/2021年度の輸出額では52%を占める。
- したがって、現下のロシア・ウクライナ情勢がエジプト・トルコに与える影響は大きく、さらにトルコから小麦粉や小麦製品を輸入する国々にも影響を与える可能性がある。

エジプトの小麦輸入国の内訳とその割合の変遷

(単位：百万トン)



出典：Global Trade Atlas 注：エジプトは一部データなし。

(参考：日本との比較)
日本の小麦輸入国の内訳とその割合の変遷

日本は小麦のほとんどを米国・カナダ・豪州の3か国から輸入しており、過去20年間では輸入先もほぼ変わらず、輸入量も安定していることがわかる。

(単位：百万トン)

